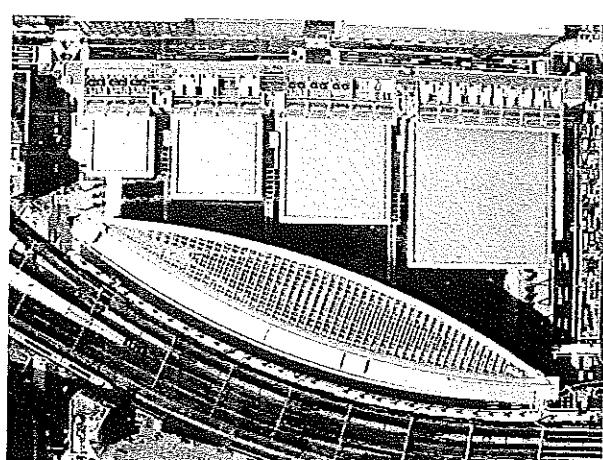
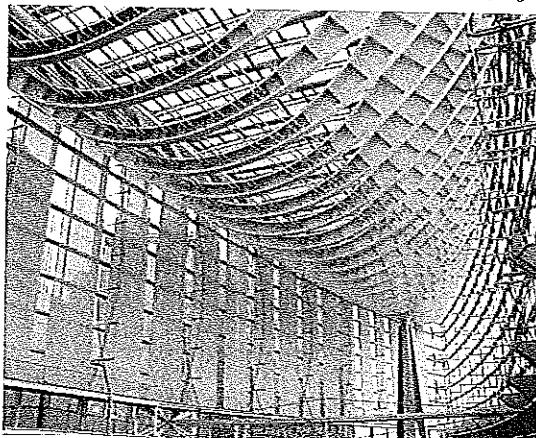


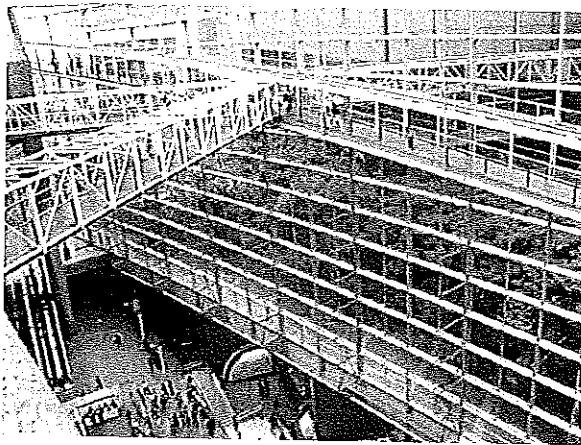
ウォークラリーレポート

10N1033 萩野泰尚

ウォークラリーを行い、まず、最初に向かったのが国際フォーラムである。有楽町駅を降りた瞬間、我々の目の前に現れた東京国際フォーラムは圧倒的な存在感を放っていた。東京国際フォーラムとは、個性的なホールを備えた4つのホール棟と、シンボリックなガラス棟から構成されていて、7つのホールをはじめ展示ホールや34の会議室のほか、多彩なショップ&レストランを備えた、東京の中心で文化と情報を国際規模で発信するコンベンション&アートセンターである。



国際フォーラムの天井は左の写真からもわかるように船のような構造になっている部分を左右の弓のようにしなったワイヤーで引っ張ることによって、X、Y、Z方向からくる、色々な角度からの力に強くなっています。また右の写真は上から見た写真である。線路に沿った曲線が実に美しい。

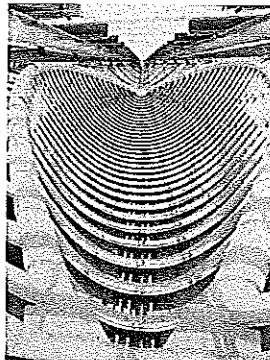
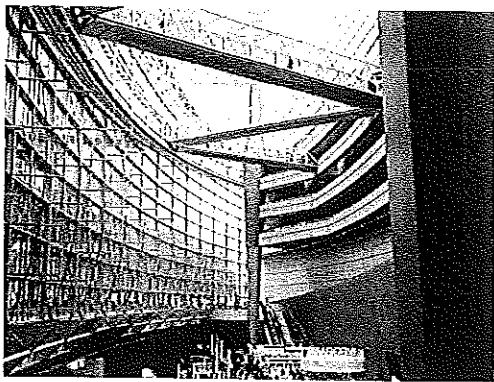


また巨大なガラス張りの側面とデザイン性の高い面白い作りの渡り廊下など、この建造物は今まで私が見てきた建造物とは明らかに一線をはくした「違い」というものを感じた。私もこれから必死に勉強してこのような素晴らしい建築をデザインしてみたいと強く思った。この大学1年生という時期に、この建築に出会えてよかったです。

建築学科ウォークラリー

YOSHIDA LAB 2010/05/29

10N1034 奥村 彩希

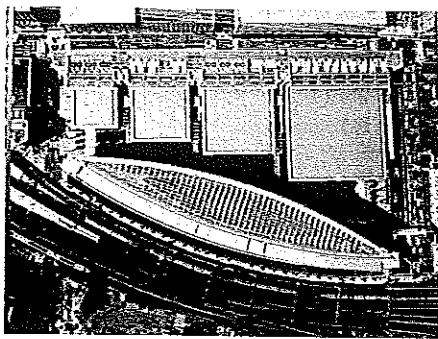


「東京国際フォーラム」

この建物は、旧都庁および周辺の関連施設を整理して建てられた。

まず私がこの建物に入って驚いたことは、ガラスの多さである。入ってすぐのガラス棟は左側の一面高さ約40m 幅約124mと非常に大きい壁がガラスに覆われていた。これほど大きな建物を支えるのがこのガラスの壁であることに驚き、またそこから見える木々の緑は人をリラックスさせるのだろうと思った。

この国際フォーラムは、全体を魚の骨のような構造の梁とそれにつながったワイヤーの絶妙なバランスで吊るという不安定構造で建設されたそうだ。いたるところにワイヤーが張りめぐらされ、「これが切れたらどうのようになってしまうのだろう」という不安を抱くこともあった。



しかし、この建物内の柱や梁、ワイヤーの張り方も含めすべて直線ではなく「曲線」で統一されておりその面ではすばらしいと思った。

入って右側にある多くの会議室などは、会議内容がわかるように一室一室に電光掲示板が掲げられ、とてもわかりやすかった。建築物を作るにあたって柱や梁という大きな構造をデザインするだけでなく、このような細かいデザインにも目を向けるべきなのかと感じた。

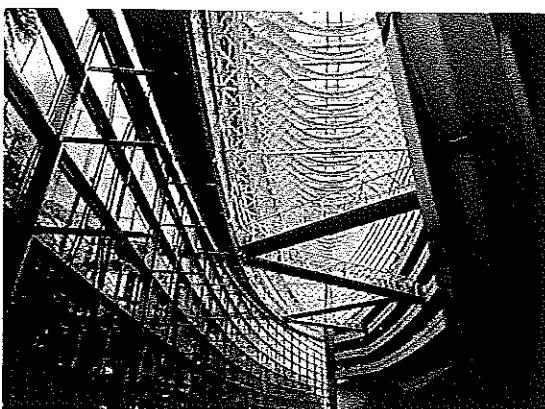
Walk Rally 2010

10N1035 表 義之

今回のウォークラリーで最初に訪れたのは、旧都庁舎および周辺の都の関連施設を整理して建てられた東京国際フォーラムでした。この建物の設計は公開国際コンペによって最優秀に選ばれたラファエル・ヴィニオリ(ラファエル・ヴィニオリ建築事務所)が担当した。



今回この WalkRally で吉田先生と TA の方に説明してもらった構造は、屋根の部分の内部にアーチ状のコンプレッション材およびカテナリー状のサスペンション材が使われ、それを繋ぐリング材とでこの大屋根が作られているということと、その屋根が両側に建てた二本の柱で支持していること、またその屋根を左右からワイヤーで引っ張ることにより水平に保っているということだった。一本でもワイヤーが切れてしまったらすぐに壊れてしまうのではないかと少し心配になってしまった。吉田先生もなんでこんなややこしい構造にしたんだ?というようなことを言っていたのはおもしろかった。



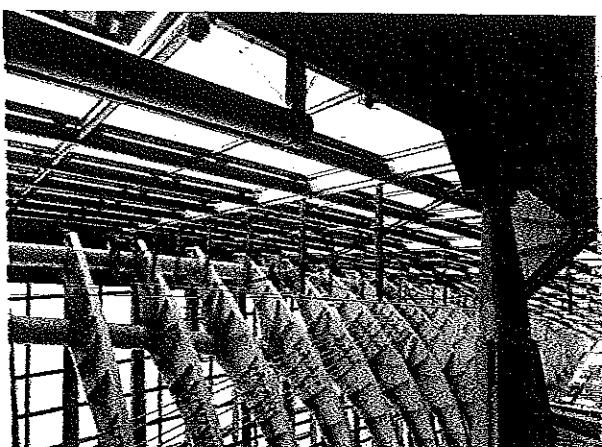
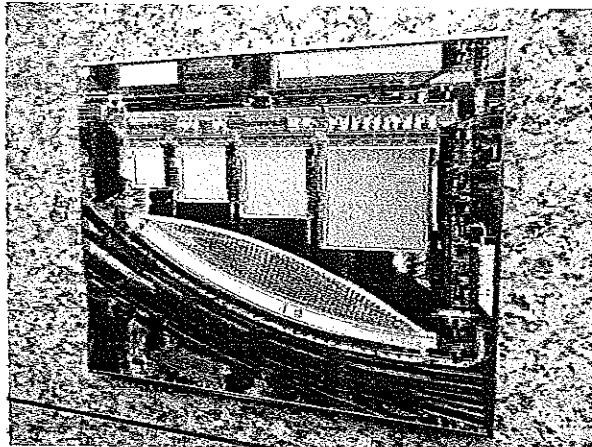
加えてガラスホール棟の片面が全面ガラス張りでできていることには、ただただきれいだなと思わされるばかりであった。こんな建築を将来建ててみたいと思った。

他にも、三菱一号館や丸の内ビルディングなどを見たが、それぞれの地方においてはみれないような建物ばかりで東京の大学に通っていてよかったと思った。

「Walk Rally 2010」レポート

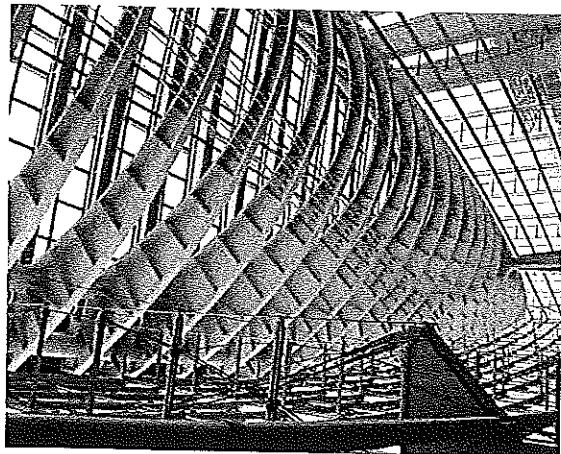
小山 陸

先日のウォークラリーで国際フォーラムに行きました。まず驚いたのは国際フォーラムの船の影をモチーフにしたガラス棟の天井部分である。驚きなのは、天井をたった2本の大きな柱で支えていることだ。天井の二つのメインアーチの横には多くのサスペンションケーブルがあり、このケーブルは両方で同じ力が加えられておりつりあっている。しかしこれでは地震などがあった場合どう対処しているのだと疑問が残ります。これに対してガラスホールの片側は会議室などのブロックがあるので、これを耐震のコアとして柱途中で水平力を流すことにした。耐震コアは、窓などがあまりないため壁面に鉄骨を入れて頑丈な構造にしています。会議室ブロックの反対側のガラス壁面は、まず風圧力をケーブルトラスを設けて対処することにした。



しかしながらガラス壁が高く全長分をスパンさせるには長すぎるので途中2つのトラスを設けることにより壁面を3分割しケーブルをこの間でスパンさせることにした。しかしながらバブルの時期に創設したこともあり、東京フォーラムは1640億の税金を投じた公共施設故様々な批判を、議論を呼びました。最も痛烈だったのは「東京の粗大ごみ」と呼ばれたことです。また建築的にも過剰なまでの構造表現主義や、わざわざ長辺方向にスパンしなければならないのか、という点もあります。これらのひはんもあるものの、本建築は知力を結した独創性のある細部までデザインされたハイクオリティな建築であることに間違いはありません。

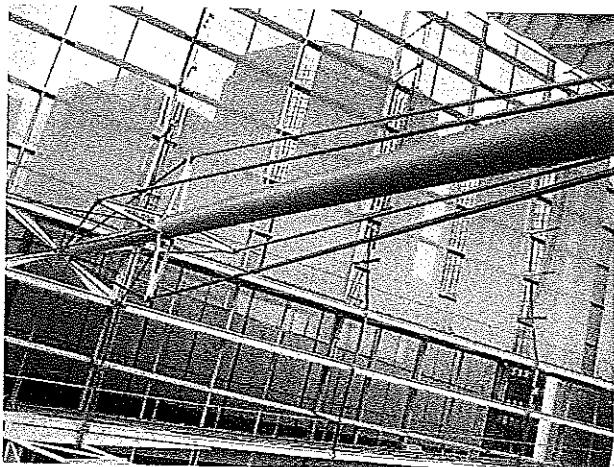
東京国際フォーラム



国際フォーラムの大屋根を支える2本の柱。
なんだか頼りなさそうな気もしなくもない。
これであの屋根を支えていると思うと驚き
です。



まず始めに行った東京国際フォーラムは 1998 年に竣工、鉄筋コンクリート造で上部には巨大な船の形をしたアトリウムが左右のワイヤーによって支えられている。これを見たときは圧倒されてしまって言葉がでなかった。TA の人の説明によると、この大きな「船」を支える左右のワイヤーがもし万が一切れてしまうと、とたんに不安定になってしまいうときいてとても繊細な建築だと思った。



地震のときに左右に揺れるのを防ぐための空中ブリッジ。6階から1階まで渡りながら降りて行ったときは広い空間を歩いて行くのが気持ちよかったです。

次に見に行った三菱地所の三菱一号美術館は、明治時代にヨーロッパ建築の影響を受け、外装がレンガ造りであったのに自分はとても趣を感じた。そして復元されたこの一号館は基礎が耐震、免震構造になっていて、最新の技術がこういうところに使われていることに興味を持った。

また、中央郵便局をみてまわったときは自分はまだこれがいい建築だとは考えることができなかった。逆に丸ビルや、外装がレンガになっている東京駅のほうがいい建築だと思っていたのでとても不思議だった。

今回このウォークラリーを通して建築のおもしろさ、楽しさ、外装、構造など建築にかかわる多くのことをまんだ。また自分の建築に対する疑問や好奇心を高めることができた。

10月10日

加藤 勝平

今回のウォークラリーは新入生歓迎会のような企画だったらしいけど、すばらしい建築を見ることがでてとても勉強になりました。

始めに有楽町駅に集合して、国際フォーラムに行きました。天井の構造がとても独創的で興味を持ちました。そして階段のかわりにスロープを使っていたので、スロープの上を歩くいい機会になりました。かなりでかい建物なのに中心はでかい吹き抜けになっていて、なんでこんな形にしたのか疑問に思いました。最上階から吹き抜けの下を見ると、とても高くて恐怖を感じました。しかしとても感動しました。有楽町には初めて行きましたが、こんなにすごい建築があるのならまた来ようと思いました。

国際フォーラムの後は三菱一号館美術館歩いていきました。三菱一号館は開国間もない日本が招いた英國建築家ジョサイア・コンドルによって設計された、三菱初の丸の内に建設した洋風事務所建築と聞いていたのですが、実際見てみるとまさに洋風建築だと思いました。なぜならまわりがほとんど赤いレンガで囲まれていたからです。この建物は全館に19世紀後半の英國で流行したクイーン・アン様式が用いられています。

クイーン・アン様式について気になったので調べました。クイーン・アン様式とは、ビクトリアン王朝の中期にイギリスで生まれた様式を起源としています。イギリスのクイーン・アン様式は比較的地味で伝統的な様式に忠実なものでしたが、植民地時代にアメリカへ渡り発展したクイーン・アン様式は基本的にイギリスのクイーン・アン様式を踏襲しながら、その華麗な意匠や装飾を強調したものになっています。19世紀後半のアメリカでかなり人気がありました。教会建築を思わせる特徴を随所に持ち左右非対称(シンメトリー)な平面設計はビクトリアン様式の基本形を忠実に再現しています。また鐘楼のような八角形の塔棟と、玄関ポーチと連続したベランダを持つことも大きな特徴となっています。三菱一号館は見た目が結構新しいと思ったら一度解体されていて、コンドルの原設計によつてよみがえったという事を聞いて思い入れの深さを感じました。美術館に行くのは今回が初めてだったので、とても感動しました。今度個人的にいろんな美術館に行ってみたいと思いました。

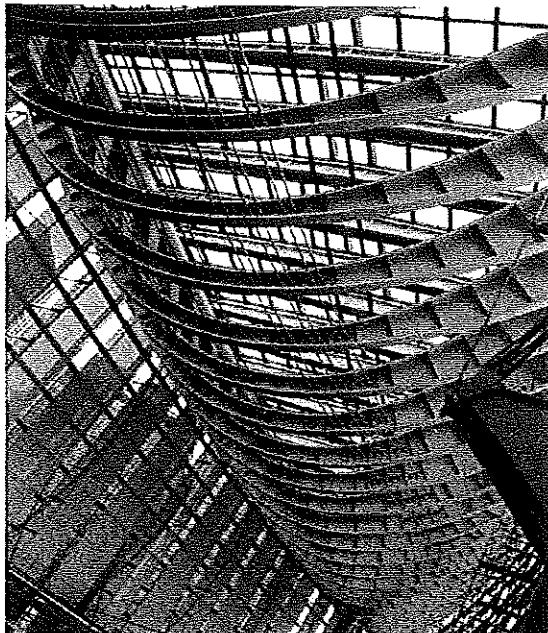
三菱一号館を出て、歩いているときもいろんな建築があって、吉田先生が良い建築を教えてくれました。途中で武道館の近くを通ったのですが、入学式のときに武道館の上のたまねぎを見るのを忘れてしまっていたので、見たかったです。歩いている途中で四年生の先輩と仲良くなり、いろんなことを教えてもらいました。今まで大学生活で何を学ぶべきかで悩んだりしていましたが、先輩に教えてもらったことを頼りに最近やっと何を学ぶべきかが見えてきて、勉強を始める事ができました。ウォークラリーを始める前に資料が配られて、中を見てみると地図などがありました。建築学科として旅をするために一度は東京の地図をみたいと思っていたので、皇居まわりの地図を見るいい機会になりました。今回のゼミでは、先輩の人脈ができて、良い建築を見られて、旅のコツもつかめて、私にとってとても貴重な体験になったと思います。今回の経験を生かしていろんなところを旅できたら良いと思いました。

建築ウォークラリー

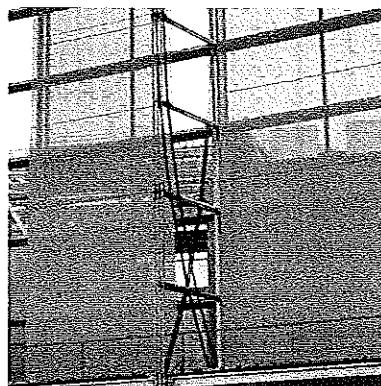
10N1039 神奈川靖如

今回のウォークラリーで、今まで見てきた建物のなかで大変素晴らしいと感じたものがある。それは、国際フォーラムである。国際フォーラムは、ホール全体がガラスの吹き抜け(ガラス棟)になっている。ガラス張りにすることによって、太陽の光が差し込み、シンプルであるが中と外の両方からでも、美しく感じさせてくれる。また、7階から1階まで続いている通路から眺める外の景色は、緑が多い木と建物が一体となってとても近代的な光景だった。そして、そとからこの国際フォーラムを眺めると、全身ガラス張りと屋根の構造が、一つの船のように見え、建築した人の意図を感じることができた。

また、この複雑なデザイン・設計を可能にさせた構造があった。



この船底のようなデザインを可能にさせるには、そうとうな計算や研究が行われたのだと、実際に見ることにより感じることができた。両端にワイヤーをつけ、両端にかかる張力を均等にさせることにより、この鉄鋼が揺れることを防ぐことができる。

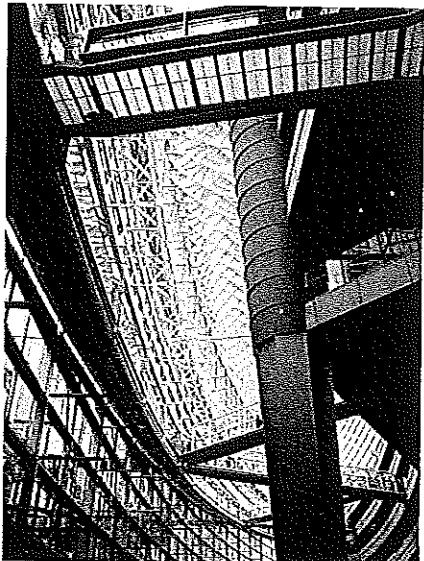


これが、鉄鋼の両脇にあるワイヤーである。

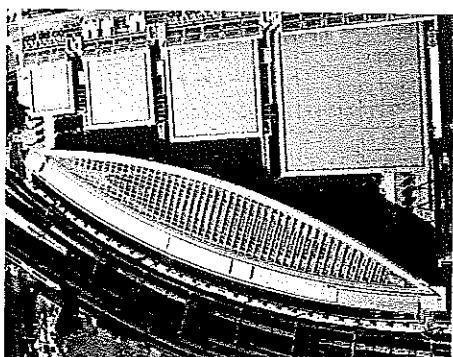
他にも、ウォークラリーではいろんなこと歩き回った。東京には、その建築家の丹念に考えられたアイディアやデザイン、安全で安心できる構造計算が、さりげなく立っている建物に取り込まれている。私は、今回のウォークラリーで建築物を実際に歩き自分の目で見ることにより、その物のきめ細かなところがわかり、感動することがわかった。今度は、私が見たい建築物を、一人で歩き見て、私の建築の感性を高めていきたい。

建築ウォークラリー

10N1040 亀山 沙織



先生が話していた中で私の中で興味深かったのは、このワイヤーについてです。魚のようにただデザインされているように思っていたのですが、これには大きな「柱」という役割があったのです。ガラス張りの空間に合うようになっているのだろうと感じました。



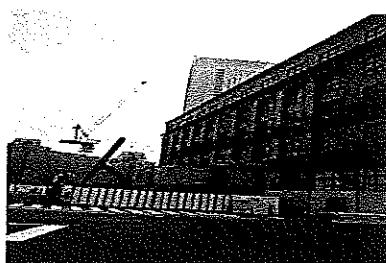
次に、建物をそのまま「吊って移動させる」ということを知らなかつたのでとっても驚きました。

最後にこのウォークラリーを通じて先輩などとたくさん接することができ、貴重な体験ができました。

私たちは国際フォーラムに行きました。そこでまず目にしたのがこの光景です。この中をたくさん的人が忙しく歩いているのが印象的でした。また先生が楽しそうに話しているので、私たちもだんだんと緊張が解けてきました。



下の階まで下りていく途中に航空写真などをみて帰りました。そのなかの一枚が左の写真です。国際フォーラムが線路に沿って建っていることがわかります。この前授業で「建築は場所に建つ」と教わったばかりだったので、すぐに実際に体感できる機会があってよかったです。



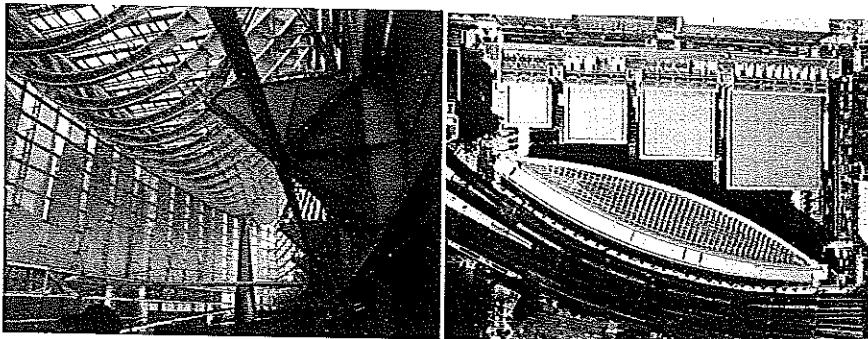
ウォークラリー

吉田 じゅう一 10n1041 建築学科 河村優太

私の班は吉田班で、JR有楽町駅を出発して東京国際フォーラム→三菱一号館美術館→丸の内ビル→新丸も内ビル→東京駅→大手町ビル→サンケイビル→内堀通り沿いの順に歩きました。

初めに東京国際フォーラムの見学をしました。入ってみて最初の印象は吹き抜け空間がとても圧巻でした。全面ガラス張りなので、解放感にあふれていて、あの空間の見せ方にとても感動しました。しかし、国際フォーラムは賛否両論であり、あの建築を「東京の粗大ごみ」という人がいるよとTAの方に聞かされたときは正直驚きました。

この建築の構造は普通の建物と違っていて地震などに耐えられるのか疑問に思いました。上部が船のような形をしていて、先端を大きな柱で支え両サイドワイヤーで引っ張って安定させていると聞きました。なおさら壊れるのではないかと不安になりました。まあ、きっとすごい建築家の方々が構造計算をしっかりとやっていると思うので崩れないとは思いますが。



次に三菱一号館美術館に行きました。建築に関する観賞をしたわけではありませんでした。ただ、展示品を見てしゃべっていました。その中に昔の東京の地図や手書きの図面などがあり、私は昔の図面に感動しました。すべて手書きなのにもかかわらず線の太さが均一で一切のズレがなく、いつか自分もこのような図面を書けるようになりたいとひそかに思っていました。

この後、東京駅の前を通過しました。私は東京駅をまだ実際に見たことがなかったので期待していたのですが工事中のため一切見ることができなかつたのでショックでした。近いうちに見に行きたいと思います。そして、すぐ近くに、あの鳩山さんが工事に反対していた郵便局がありました。私が最初に抱いた感想は正直言って古そうな建物で工事に反対する必要があるのかと感じました。しかし、吉田先生曰く、できた当初はとても立派な建築であり現代の人は目が慣れすぎ普通の建物にすぎないようを感じるらしいです。東京駅を通過後ひたすら市ヶ谷まで歩きました。うちの班のプランは皇居の周りを歩くと聞いていたので結構楽しみにしていたので、皇居の説明なしでスルーしていったときは内心がつ

ウォークラリー

かりでした。また皇居を過ぎたあたりから吉田先生の歩くスピードが速くなりみんな置いてかれたというハプニングがありました。そして市ヶ谷に到着です。

ウォークラリーを通して感じたことは写真や動画で建築物を見るより実際に見たほうが空間の感じ方や迫力が比べ物にならない位違うということです。自分の足で歩いて自分で見て感じることがいかに大切か改めて実感しました。最後に企画してくださった皆様、吉田ゼミの皆様本当に有意義な時間ありがとうございました。